

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-24	実施計画番号	31	事業開始年度	昭和41年度
事務事業名	子ども会ジュニアリーダーの育成			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	ジュニアリーダーは、子どもたちと年齢的に近く、子どもたちの要求等を的確に把握できるところに意義があり、指導的役割が期待されることから、子ども会の活性化を図るうえでジュニアリーダーの育成は必要である。				
事務事業の目的	集団行動の楽しさを体験し、単位子ども会での率直的活動者となるために必要な知識や技術を習得させる。				
実施状況	① 初級リーダー研修会 2回(4月、10月) 計19名参加 ② 初級宿泊研修会(1泊2日) 1回(2月) 24名参加 ③ 中級宿泊研修会(1泊2日) 1回(6月) 9名参加 研修内容は、創作活動、スポーツ活動、ゲーム・レクリエーションの指導等について、中高生のジュニアリーダーを中心に企画・運営し、小学生を含めて自主的に活動しております。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		353	353	353

【指標】

活動指標	活動指標名①		研修会実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	4	4	4
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		研修会参加人数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人	目標値	75	75	60
			実績値	86	52	
			達成度(%)	115%	69%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">①②教育委員会と子ども会育成連合会の共催で研修会を開催しております。教育委員会では、学校を通じて児童への研修会の周知・募集しており、また、子ども会では研修会の実務を担っており、実施主体として妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	①②教育委員会と子ども会育成連合会の共催で研修会を開催しております。教育委員会では、学校を通じて児童への研修会の周知・募集しており、また、子ども会では研修会の実務を担っており、実施主体として妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
①②教育委員会と子ども会育成連合会の共催で研修会を開催しております。教育委員会では、学校を通じて児童への研修会の周知・募集しており、また、子ども会では研修会の実務を担っており、実施主体として妥当である。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③活動指標の実績は、予定通りである。 ④成果指標の実績は、おおむね目標を達成しており順調である。 ⑤現状の周知方法は、学校を通じて子どもに周知しているが、子ども会の活性化の観点からPTAや町内会等の関係団体と連携した地域の連帯について検討の余地がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	③活動指標の実績は、予定通りである。 ④成果指標の実績は、おおむね目標を達成しており順調である。 ⑤現状の周知方法は、学校を通じて子どもに周知しているが、子ども会の活性化の観点からPTAや町内会等の関係団体と連携した地域の連帯について検討の余地がある。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	③活動指標の実績は、予定通りである。 ④成果指標の実績は、おおむね目標を達成しており順調である。 ⑤現状の周知方法は、学校を通じて子どもに周知しているが、子ども会の活性化の観点からPTAや町内会等の関係団体と連携した地域の連帯について検討の余地がある。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑥⑦⑧について、研修会等の実務を担っているのは、子ども会育成連合会であり、教育委員会は研修会の周知や参加者募集の対応等の後方支援として役割分担がされていることから、事業費の削減や他事業との連携については実施済である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	⑥⑦⑧について、研修会等の実務を担っているのは、子ども会育成連合会であり、教育委員会は研修会の周知や参加者募集の対応等の後方支援として役割分担がされていることから、事業費の削減や他事業との連携については実施済である。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	⑥⑦⑧について、研修会等の実務を担っているのは、子ども会育成連合会であり、教育委員会は研修会の周知や参加者募集の対応等の後方支援として役割分担がされていることから、事業費の削減や他事業との連携については実施済である。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨対象者全員には学校を通じて参加を募っているのが公平である。 ⑩定められた負担金の支払いを受けて事業を実施している。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	⑨対象者全員には学校を通じて参加を募っているのが公平である。 ⑩定められた負担金の支払いを受けて事業を実施している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
⑨対象者全員には学校を通じて参加を募っているのが公平である。 ⑩定められた負担金の支払いを受けて事業を実施している。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

研修会は、子ども会育成連合会のジュニアリーダーにより企画・運営されている。ゲームやレクリエーション、創作活動等を楽しく行われ、それぞれの子どもたちに合わせたものとなっており、また、子ども会について学ぶ時間も取り入れるなど充実した研修会になっております。ただ、少子化等により、子ども会活動が衰退している子ども会も見受けられることから、PTAや町内会等地域の関係団体等と連携して事業を実施することにより、ジュニアリーダーが育成されるとともに、子ども会の活性化に繋がることを期待して継続することとしたい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

市内各小学校にお願いして参加者を募っているが、可能な限り多くの機会を捉えて当該事業の周知徹底に努め多くの参加者を確保するほか、地域の関係団体との連携を強化して当該事業の更なる充実を目指す。